

団体名

( 市・郡・町等 )

【震災直後（平成7年1月～3月末まで）の活動について】

1 どのような活動をされましたか

- ・食料の支援（おにぎり、炊き出し等）
- ・避難所での支援（清掃、買い物、手伝い等）
- ・物資提供
- ・被災した子どもたちの受け入れ
- ・募金活動
- ・その他（ )
- ・特に活動はしなかった

（ここを選ばれた場合は、2～6は記入していただく必要はありません）

2 どこで活動されましたか

- ・被災地
- ・居住地
- ・被災地と居住地の両方

3 震災後 何日目から活動を始められましたか

- ・3日以内
- ・4日～1週間以内
- ・1週間以後

4 いつ頃まで続けられましたか

- ・平成7年1月末まで
- ・平成7年2月末まで
- ・平成7年3月末まで

5 参加者について

・参加人員は？（延べ人数でお答え下さい）

およそ \_\_\_\_\_ 人

6 費用はどうされましたか

- ・会員の負担
  - ・会の経費から支出
  - ・その他（ )
- （義援金、現物）

【復旧・復興期（平成7年4月以降）の活動について】

7 どのような活動をされましたか

- ・仮設・復興住宅でのふれあいづくり  
→具体的にご記入ください（ )
- 例) ふれあい喫茶、声かけ、買い物
- ・引っ越しの手伝い
- ・その他（ )
- ・特に活動はしなかった

（ここを選ばれた場合は、8～11は記入していただく必要はありません）

8 どこで活動されましたか

- ・被災地
- ・居住地
- ・被災地と居住地の両方

9 いつ頃まで続けられましたか

具体的にご記入ください ( )

例) 震災後1年半、震災後4年

10 参加者について

- ・参加人員は？(延べ人数でお答え下さい)

およそ \_\_\_\_\_ 人

11 費用はどうされましたか

- ・会員の負担
- ・会の経費から支出
- ・助成金  
(義援金、現物)
- ・その他 ( )

### 【その他】

12 震災前と、震災後で団体の活動内容などで変化があればご記入下さい

例) 活動内容に広がりが出た、団結力が高まった

[ ]

13 その他、震災と地域女性団体の関係についてご自由にご記入ください。

[ ]

14 貴団体の活動が新聞、その他の記事に掲載されたことがあれば、お手数ですがその記事のコピーをご恵与ください。

15 震災の関連記事が掲載されている貴団体の機関紙、冊子等があれば、ご恵与ください。コピーでもかまいません。

兵庫県連合婦人会

震災直後(17.1~3月末までの活動について)	神戸市	姫路市	西宮市連合婦人会(芦原地区連合婦人会)	明石市	洲本市連合婦人会	豊岡市	加古川市
どのような活動をしたか	食料の支援、物資提供、募金活動	食料の支援、避難所での支援、物資提供、被災した子どもたちの受け入れ、金活動、その他(バザー)	食料の支援、避難所での支援(配膳、アンケート調査により、被災者のニーズを把握し、被災後の街づくりに関し、被災した子どもたちの受け入れ)	食料の支援、避難所での支援	食料の支援、物資提供、募金活動	食料の支援(おにぎり、炊き出し)、避難所での支援(清掃、手洗い等)、募金活動	
どこで活動したか	被災地	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方
震災後、何日から活動を始めたか	4日~1週間以内、1週間以後	3日以内、4日~1週間以内、1週間以後	4日~1週間以内	1週間以降	3日以内	4日~1週間以内、1週間以後	3日以内
いつ頃まで活動を続けたか	平成7年2月末まで	平成7年3月末まで	平成7年3月末まで(以後38団体で継続された復興会構で被災住宅の復旧や、空地(公園)やガレージ等をつくり、道路の整備、避難所の確保)	平成7年3月末まで	平成7年2月末まで	平成7年2月末まで	平成7年2月末まで
参加者について(延べ人数)		およそ1000人以上	400人	およそ200人	およそ50人	およそ20人	およそ100人
費用はどうしたか	会員の負担	会員の負担、その他(地域の方、企業の方)	その他(ボランティア)	その他(教養物資を市から提供をうけた)	会の経費から支出	会の経費から支出、その他(おにぎりは市より)	会員の負担、その他
震災・復興期(17.4月以降)の活動について	仮設・復興住宅でのふれあいづくり(比較的被害の少ない地区の委員で衣料、日用品など集め、動向したり、手芸(1時間位)できる)、ママリース、プロー子等をうら、ふれあい喫茶、年末の餅つき用のお米を贈る)、引越しの手伝い	仮設・復興住宅でのふれあいづくり(企業の方、会社員(朝日社)を仮設に利用(17年~18年末)、年末のもちつき、生活物資を送る)		その他(①フェニックス・ステーション(県)の活動②震災手記を冊子にした)		特に活動はしなかった	仮設・復興住宅でのふれあいづくり(声かけ、買い物、清掃、話し相手)、その他(物資の仕分け、つき回りの手伝い等)
どこで活動したか	居住地(仮設住宅へ)、被災地と居住地の両方			居住地	被災地		居住地:仮設住宅(加古川市平岡町) 震災後1年半
いつ頃まで活動を続けたか(異体的記)				2年	震災後1年半		
参加者について(延べ人数)				およそ4,000人	およそ30人		およそ50人
費用はどうしたか			その他(ボランティア)	余の経費から支出、その他(隣の震災復興活動(フェニックス・ステーション)県運からの見舞金)	助成金		会員の負担
震災前と、震災後における団体の活動内容の変化(自由記入)			緊急の場合は特に地域団体との連絡はできる。(例 暴力団追放運動により実例がある)	*手記集を作るにあたり、地域の全面的な協力体制ができた。 フェニックス・ステーションの活動から、朝霧校区では「左義長」まじり、3年目からは「炊き出し」も加わり、女性の参加が相対して定着している。	被災地域の連携が今までよりも深くなった	組織力の強化の必要性を思	即時に集まることが出来、団体の連帯意識の強さを感じた。震災後、さらに自分たちの団体が、とても重要で必要な団体であることを痛切に感じると共に、そのとき活動した人たちの交流がいつまでも続き、人間関係の素講らしい面が表れた。
その他、震災と地域女性団体の関係について(自由記入)			男女関係ありません	今回の震災では、炊き出しにあたり費用がなく大変苦労が、地域の非常事態のために、手際よく支援をわすかでも用意しておき、資金が乏しい、活動のサポート、ワーキングもはかまわると考え、前向きにとりかかっている。		非常にたい	他団体との関係は特に発展しなかったが、自分たちが表裏一体で持っている団体の理解や会員の理解と支援に感謝することが出来た。
添付資料	あり		日本テレビ(10チャンネル)3回取材にきました。暴力団追放運動後の申し入れがあった				婦人会のもっている婦人防火クラブ連合会が供出すのき賞(48:130)神戸、加古川市連合婦人会50周年記念(19年12月)

兵庫県連合婦人会

龍野市	赤穂市	宝塚市	三木市	高砂市	三田市	養父市	川辺郡
食料の支援、物資提供、募 金活動	食料の支援、物資提供、募 金活動	食料の支援、避難所での支 援、その他(引越し手伝い)	食料の支援、避難所での支 援、物資提供	食料の支援、避難所での支 援(準備)、募金活動、その 他(救済物資の仕分け)	食料の支援、避難所での支 援、物資提供、募金活動	食料の支援、物資提供、募 金活動	食料の支援、物資提供
被災地	居住地	被災地と居住地の両方	被災地	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方
4日~1週間以内	3日以内	3日以内、1週間以後	3日以内	3日以内	3日以内	3日以内	3日以内
平成7年3月末まで	平成7年1月末まで	平成9年8月まで	平成7年3月末まで	平成7年2月末まで	平成7年3月末まで	平成7年3月末まで	平成7年2月末まで
およそ90人	およそ300人	およそ450人以上	およそ250人	およそ500人	およそ100人	およそ500人	およそ100人
会員の負担	会の経費から支出、その他 (赤穂市よりおのぎり用米提 供)	その他(社会福祉協議会を 通じて)	会の経費から支出	会員の負担	会員の負担、会の経費から 支出	会の経費から支出、その他 (組織内から)	会の経費から支出、その他 (日赤より支出、及び募援金)
特に活動はしなかった		仮設・復興住宅でのふれあ いづくり(食事会(兼住宅) ふれあい)、引越しの手伝 い	仮設・復興住宅でのふれあ いづくり(訪問、声かけ活動)	仮設・復興住宅でのふれあ いづくり(年末に電氣こたつ、 テレビ等寄贈、もちつき等)、 引越しの手伝い	仮設・復興住宅でのふれあ いづくり(日用品、食品等パ ッケージ)、引越しの手伝い	仮設・復興住宅でのふれあ いづくり(赤正月のお餅をつ いて仮設を訪問した)	特に活動はしなかった
		被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	
		震災後2年半	震災後約2年	約3年		震災後1年過ぎ	
		およそ450人以上	およそ50人	およそ500人		およそ300人	
			会の経費から支出	会の経費から支出		会の経費から支出、助成金	
		諸活動への参加意識が向上 し、互助精神のupにより地域 回結力が向上した	震災当時は会員同士の絆が 強まり回結力も高まりました が、現在は震災当時の大変 さも忘れ、又個人の意見が重 視され婦人会組織も危うく なっています。		回結力が高まり、自分自身に 回結力も高まりました。婦人 会の認識も強まりました。		
		震災後における補助活動を 検討された。(例)給食支 援活動 ②救済物資の配布 支援活動)	阪神淡路大震災で被災の女性団体 は一丸となって被災地にもかかわ らず震災当日からおのぎり5000か そのあと1方面と毎日作り続けまし た。女性の団結が、1ヶ月と5ヶ月時 には一歩に女性の力が発揮されほ んどうに頼もしい団体だと感づいた です		震災後、ボランティアという言葉が 風く舞われるようになり婦人会が 多くても一人でも活動できることが示 ランディアをはじめ婦人会や める等の声を聞くことがあるが、大 規模な災害ほど、一人より団体の 力が重要だと現地で実感するなか で感じた。募援金、物資、炊き出し 等すべて団体の力は大きい		
地域での助け合いの精神が 強まった事。婦人会で7ヶ 月を年1回実施。日赤を通じ募 援金活動を続けている	あり	あり					

兵庫県連合婦人会

加東郡	多可郡連合婦人会(黒田庄町)	多可郡連合婦人会(中町)	多可郡連合婦人会(加美町)	多可郡連合婦人会(八千代町)	加古郡	夢前郡連合婦人会(御島郡 夢前町)	神崎郡
食料の支援、避難所での支援、物資提供	食料の支援、避難所での支援、物資提供、募金活動	食料の支援、避難所での支援、物資提供、募金活動	食料の支援、物資提供、募金活動	食料の支援、物資提供、その他(被災者公共施設へ1泊2日で受け入れ)	食料の支援、避難所での支援、物資提供、募金活動	食料の支援、物資提供、募金活動	食料の支援、避難所での支援、物資提供、募金活動
被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方
3日以内	3日以内	4日～1週間以内	1週間以内	3日以内	3日以内	4日～1週間以内	4日～1週間以内
平成7年3月未まで	平成7年3月未まで	平成7年2月未まで	平成7年2月未まで	平成7年3月未まで	平成7年3月未まで	平成7年2月未まで	
およそ40人	およそ500人	およそ1400人	およそ30人	およそ400人	およそ200人	およそ250人	
その他(行政)	会員の負担(募金活動) その他(募金活動)	会員の負担、会の経費から支出	会の経費から支出	会の経費から支出、その他(行政支援)	会員の負担、会の経費から支出	会の経費から支出、その他(助成金)	
仮設・復興住宅でのふれあいづくり(おもちゃ大会で交流)	仮設・復興住宅でのふれあいづくり(水シャワー20×27cm、ひもの長さ15cm)の守法はたまたま黒田庄町(黒田庄)で見つけたもので海外協力支援(用いられないもの、取組あり)「将参(仮設訪問)、その他(入浴・洗濯ボランティア)	居住地	居住地	居住地	居住地	居住地	仮設・復興住宅でのふれあいづくり(震災後3年程、野菜、米など持参)
	被災地と居住地の両方	居住地			被災地と居住地の両方	居住地	居住地
	およそ100人				およそ250人	およそ30人	震災後3年位
	会員の負担(義援金、現物)	会の経費から支出				会の経費から支出、助成金	会員の負担
当時はお互いに助け合いの精神が湧いたように思いますが、時がたつにつれて少しずつすたすたに思っています。	会員だけでなく、その家族も協力して地域ぐるみの救援活動になった。特に黒田庄町の水がおいしいと待たれたり、豚汁炊き出し、おにぎりでは重宝のきざみ野菜もつと泉山と所望され、久しぶりにこないおいしい汁ものは食べたことがない等と書かれた					震災時は団結力が湧き、自主的な活動が出来た。震災後数年たつてくると忘れがちになりますが、防災、訓練は毎年つづけるようになった	
婦人会組織があれほど、どこよりも早く毛布やおにぎり、救援物資を被災地に送ることが出来たと思えます。	女性団体、特に地縁関係の絆の強い農村地帯ではあれば出来ること、何かしたいと云うボランティア精神が最大限に発揮され、役員家族まで巻き込んだボランティアに出かけた若い女性はその地で結婚相手も見つけた例もある程です					震災当時は地域の女性団体とのコミュニケーションが深まったように思いました	
	10年近く前のことですから					あり	

兵庫県連合婦人会

播磨郡	婦人会(日赤共済) 赤穂郡	宍粟郡	城崎郡連合婦人会	美方郡	水上市郡連合婦人会	津名郡連合婦人会(北淡町)
食料の支援、避難所での支援(清掃)、物資提供(衣類、タオル、毛布を送る)、募金活動、その他(郡婦人会より西宮の公園に於いて豚汁の炊きだし)	食料の支援、避難所での支援、物資提供、募金活動	食料の支援、避難所での支援、物資提供、募金活動	食料の支援、物資提供、募金活動	食料の支援、物資提供	食料の支援(おにぎり、炊き出し等)、避難所での支援(手伝い等)、物資提供、募金活動	食料の支援(炊き出し等)、避難所での支援(清掃、手伝い等)、物資提供
被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地、居住地
3日以内、1週間以内	3日以内	3日以内	3日以内	4日～1週間以内	3日以内	3日以内
平成7年3月末まで	平成7年2月末まで	平成7年2月末まで	平成7年3月末まで	平成7年2月末まで	平成7年2月末まで	平成7年3月末まで
およそ3270人	計120名以上	およそ100人	およそ200人	およそ100人	およそ5,000人	およそ200人
会の総費から支出、その他(町財政、日赤募金、社協の賛成銀行)	会員の負担(義理金、現物)、その他(最初は個人負担の後、福祉より物品のみ届けられました)	会員の負担、会の総費から支出、その他(町より)	会員の負担(義理金、現物)	会員の負担	会員の負担、会の総費から支出	会員の負担(義理金、現物)
	仮設・復興住宅でのふれあいづくり(声かけと物品提供)	仮設・復興住宅でのふれあいづくり(道路に出向き(もち持参)義理金手渡し)	仮設・復興住宅でのふれあいづくり(声かけ訪問)		特に活動はしなかった	仮設・復興住宅でのふれあいづくり(物品を運ける、声かけ)、引越しの手伝い、その他(津名町に手伝いに行く)
被災地と居住地の両方		被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方			被災地と居住地の両方
震災後1年		およそ100人	およそ100人			震災後1年半
およそ100人			会員の負担(義理金、現物)、その他(町民の持ち寄り)			会員の負担(義理金、現物)
会の総費から支出、助成金、その他(義理金兼金)						
その時はみんな一丸となって団結力が高まった			平穩な日常生活では男らしいものが自覚して、重なる体験ができた。組織の大切さを感じた。		震災後は、ボランティア活動が盛んになった。震災直後は、団結力が高まった。	震災前は組織的な活動が多かったが、震災後は利己主義的な考えが多く見られるようになった。何でも要求すればかなえられるという人が多くなった気がしました。
炊き出し、品物が不足していた当所におでん、粥、本組、竹輪、ごんにやく)西宮甲東小学校運動場において、お札状も届いていましたがおこへいだったか見当たらない	沢山の団体、グループのある中で田舎の場合、婦人会は一戸に一人の婦人会員の住いか何かがお客れば、すすぐさな協力、回結できる団体だと思ふ。あの震災の折にも、自分のこととして受け止めた活動できたと思っている。	有事には即活動の出来る組織の必要性を感じた		日赤赤十字活動が盛んに日赤赤十字を知る事が出来、大変良かったと思えます。		震災後は地域とのつながりが結束していたが、日がたつにつれて自由な行動をする人が多くなり団結に對する責任感がうすれて来たように思えます。

兵庫生活学校

		神戸	加古川市	津名郡一宮町
震災直後(H7.1~3月末まで)の活動について				
どのような活動をしたか	避難所での支援	物資提供、募金活動	食料支援、避難所での支援、物資提供	
どこで活動したか	被災地と居住地の両方	居住地	被災地と居住地の両方	
震災後、何日目から活動を始めたか	3日以内	4日~1週間以内	3日以内	
いつ頃まで活動を続けたか	平成7年3月末まで		平成7年3月末まで	
参加者について(延べ人数)	500人	20人	160人	
費用はどうしたか	県、市、各家庭で不要になったものを提供	会員の負担	ボランティア活動のみ	
復旧・復興期(H7.4月以降)の活動について				
どのような活動をしたか	3月以降に引越し手伝い(延べ10人)	仮設・復興住宅でのふれあいづくり	ふれあいづくり(声かけ、ふれあい交流サロン、ふれあい喫茶)、引越の手伝い	
どこで活動したか		居住地	被災地と居住地の両方	
いつ頃まで活動を続けたか(具体的記入)			震災後1年	
参加者について(延べ人数)		20人	95人	
費用はどうしたか		会員の負担	その他(ボランティア活動のみ)	
その他				
震災前と、震災後における団体の活動内容の変化(自由記入)			以前より団結力が強くなり、自主的にボランティア活動に参加できるようになった。	
その他、震災と地域女性団体の関係について(自由記入)			町内の女性団体との連携を密にし、活動を続けている。	
添付資料				

兵庫県消費者団体連絡協議会

	尼崎	福崎町	城崎町	水上郡	淡路
震災直後(H7.1~3月末まで)の活動について					
どのような活動をしたか	食料支援、避難所での支援、物資提供、募金活動	食料支援	食料支援、募金活動	食料支援、避難所での支援、物資提供、募金活動	特に活動はしなかった
どこで活動したか	被災地と居住地の両方	居住地	被災地	被災地と居住地の両方	
震災後、何日目から活動を始めた(週間以後)	1週間以後	1週間以後	3日以内	3日以内	
いつ頃まで活動を続けたか	平成7年2月末まで	平成7年2月末まで	平成7年1月末まで	平成7年3月末まで	
参加者について(延べ人数)	110人	50人	30人	2,000~5,000人	
費用はどうしたか	会員の負担、会の経費から支出	町の経費	会員の負担、町より、現物	会員の負担	
震災直後(H7.4月以降)の活動について					
どのような活動をしたか	その他(悪質商法の発生したため、街頭キャンペーンやチラシでの啓発を続けた)	特に活動しなかった(ずいぶんむかしなのであまりおぼえていないとのことです)	特に活動はしなかった		悪質商法追放について啓発した
どこで活動したか	被災地と居住地の両方			被災地と居住地の両方	被災地
いつ頃まで活動を続けたか(具体的に)	震災後2年くらい			震災後1年半	震災後~現在
参加者について(延べ人数)	50人			2,000~5,000人	350人
費用はどうしたか	会の経費から支出			会員の負担	会の経費から支出
その他					
震災前と、震災後における団体の活動内容の変化(自由記入)	震災での活動の変化はない			ボランティア活動が高まり、広がってきた。日赤奉仕団活動が活発になってきた。	消費者団体、女性団体、市町行政、警察と連携して活動
その他、震災と地域女性団体の関係について(自由記入)					
添付資料	あり				



兵庫県いずみ会

	伊丹市	川西市	三田市	新宮町
震災直後(H7.1~3月末までの活動について)				
どのような活動をしたか	食料支援	食料支援、避難所での支援	食料支援(炊き出し)	食料支援、物資提供、募金活動、マスクを縫ってメッセンジャーとともに送る(700余)
どこで活動したか	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地
震災後、何日目から活動を始めたか	1週間以後	1週間以後	1週間以後	3日以内
いつ頃まで活動を続けたか	平成7年3月末まで	平成7年3月末まで	平成7年3月末まで	平成7年夏頃まで
参加者について(延べ人数)	30人	31人	30人	200人
費用はどうか	会員の負担、会の経費から支出、現物	会員の負担、義援金、現物	三田市からの要請	会員の負担、会の経費から支出
復旧・復興期(H7.4月以降)の活動について				
どのような活動をしたか	ふれあいづくり(仮設訪問、食事会、ふれあいサロン)	ふれあいづくり(食事会、ふれあい喫茶、声かけ)、引越しの手伝い	ふれあいづくり(声かけ、お茶、おやつ持参)	当地への避難家庭へ訪問活動
どこで活動したか	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	当地(地元)での避難家庭へ訪問活動
いつ頃まで活動を続けたか(具体的な)	震災後2年	会員の中には現在も続けている	平成12年3月8日まで	震災後1年半(神戸へ帰られるまで)
参加者について(延べ人数)	1,300人	1,000人	234人	50人
費用はどうか		会の経費から支出、助成金、義援金	助成金、一部、会活動費として	会員の負担
その他				
震災前と、震災後における団体の活動内容の変化(自由記入)		恒久住宅内に食生活リーダー(いずみ会リーダー)養成。高齢者と会員のふれあい、ボランティアの広がりを経験する事ができた。フライパン一つでできる料理を3か所の仮設住宅を実施。	在宅養士と話す機会が多くなり、内容の理解が深まった。	ボランティア意識がしつかりと身につき、運搬を保てるようになった。
その他、震災と地域女性団体の関係について(自由記入)		福祉委員と協力。会員の補助として地域の若い女性と協力し食事づくりできた。	他団体との関係は特になかった。	いずみ会特集号(震災編)に炊き出し写真が掲載
添付資料			あり	

兵庫県愛育連合会

震災直後(H7.1~3月末まで)の活動について		三田市	竹野町	篠山市	五色町
どのような活動をしたか	食料支援、物資提供、募金活動	食料支援、避難所での支援、物資提供、簿籍金活動	食料支援、避難所での支援(特養入所になった人の介護)、物資提供、募金活動	食料支援、避難所での支援	避難所での支援、物資提供
どこで活動したか	居住地	被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	居住地	被災地と居住地の両方
震災後、何日目から活動を始めたか	4日~1週間以内	3日以内	3日以内	3日以内	3日以内
いつ頃まで活動を続けたか	平成7年2月末まで	平成7年3月末まで	平成7年3月末まで	平成7年2月末まで	平成7年3月末まで
参加者について(延べ人数)	20人	200~300人	100人	80人	80人
費用はどうしたか	会員の負担	会員の負担	会員の負担	会員の負担	会員の負担、会の経費から支出
復旧・復興期(H7.4月以降)の活動について					
どのような活動をしたか	特に活動はしなかった	特に活動はしなかった	特に活動はしなかった	ふれあいづくり(健康相談の協力、声かけ、交流会の開催)、引越し手伝い、その他(行政からの求めに応じ、各種被災者支援会議等への出席)	
どこで活動したか				居住地	
いつ頃まで活動を続けたか(具体的に)				健康相談への参加は現在も継続中	
参加者について(延べ人数)					
費用はどうしたか					会員の負担、会の経費から支出
その他					
震災前と、震災後における団体の活動内容の変化(自由記入)	声かけ訪問をした時に、枕元に貴重品、くつ、水を常に置いてくださいなね、と必ず言っていました。	大きな変化はないが、いざとなれば固く団結して、活動していけると言うことが認識できました。	このような時に、即、活動できるのは愛育班のような組織である。地区の組織は大事にしていかねばならないと思う。		具体的な動きができたことで充実感が得られた。
その他、震災と地域女性団体の関係について(自由記入)	おにぎりをづくりながら、他のボランティア、婦人会との輪ができて、一つの目標に向かってみんなが動いていることのすばらしさを知った。				
添付資料					あり

兵庫県更生保護婦人連盟

	洲本市	宍粟地区	朝来地区	津名地区	三原地区
震災直後(H7.1~3月末までの活動について)	食料支援、物資提供、募金活動	食料支援、避難所での支援(手伝い等)、募金活動	食料支援、物資提供	食料支援、物資提供、募金活動	食料支援、物資提供、募金活動
どこで活動したか		被災地	被災地と居住地の両方		
震災後、何日から活動を始めたか		4日~1週間以内	1月17日から		
いつ頃まで活動を続けたか		平成7年3月末まで	平成7年12月末まで		
参加者について(延べ人数)		50人	2,000人		
費用はどうか		会員の負担、会の経費から支出	会員の負担、1月17日のお米は町		
復旧・復興期(H7.4月以降)の活動について					
どのような活動をしたか	仮設・復興住宅でのふれあいづくり、引越しの手伝い	特に活動はしなかった	ふれあいづくり(生活用品、食料品、衣類等を持参)、その他、ダンス、腰掛、ふとん、座布団、こたつぶとん	ふれあいづくり、引越しの手伝い	ふれあいづくり、引越しの手伝い
どこで活動したか			被災地と居住地の両方		
いつ頃まで活動を続けたか(具体的記)			震災後1年		
参加者について(延べ人数)			会員の負担		
費用はどうか					
その他	震災前と、震災後における団体の活動内容の変化(自由記入)	被災地の人々とのふれあいが深まり活動内容に広がりができました。助け合える喜びが生まれ、ボランティア活動に積極的に取り組むようになった。	平素からのボランティア活動が強力に行動できるようになりました。	隣近所、関係なく避難所で助け合う力が増加していった。被災者を大切にする、皆で助け合う、中学校、小学校の講堂(体育館)で暮らしたので、子供との接触も増え、三世交代の場ができた。	ミニ集会、子育て支援活動(平成10年より開始)等、活動範囲が広がった。知人が増えた。
	他の女性団体以外にも地域の団体から声をかけてもらえ、ミニ集会所をするのに役立った。震災の時はいずれみ会で活動していた。知人も増えた。	交流が深まったと思う。	震災後の行動がすぐにできた。日赤奉仕団と更生保護婦人会とあいまって活動した	人間関係の輪が広がった。職業別人間関係がなくなった(例、農家と漁師との交流がなくなったが、誰でも話し合え、感謝の気持ちを保持。誰とでも声かけができて安心を気づかす精神を培うことができた。	町公民館の調理室を使用して炊き出しをしたので、女性団体から数名ずつ割り当てがあり参加したので、多くの方との交流ができた。
	添付資料		あり		

財団法人兵庫県老人クラブ連合会

震災直後(H7.1~3月末まで)の活動について		西宮市	三木市	加西市	姫路市	養父市	吉川町
どのような活動をしましたか	食糧支援、避難所での支援、物資提供、募金活動	募金活動	物資提供、募金活動、仮設住宅への慰問、もちつき大会等のイベント	募金活動	物資提供、募金活動(1600万円)、仮設住宅入居支援(4か所500戸)	物資提供、募金活動	物資提供、募金活動
どこで活動したか	被災地と居住地の両方		居住地		居住地	居住地	居住地
震災後、何日目から活動を始めたか	1週間以後		1週間以後		4日~1週間以内	4日~1週間以内	1週間以後
いつ頃まで活動を続けたか	平成7年3月末まで		平成7年3月末まで		平成11年3月まで	平成7年3月末まで	平成7年3月末まで
参加者について(延べ人数)	230人		50人		25,000人	2000人	50人
費用はどうしたか	会員の負担、会の経費から支出、市の助成金、義援金		会の経費から支出		会の経費から支出、県老連からの配分金	会員の負担	会員の負担、会の経費から支出
復旧・復興期(H7.4月以降)の活動について							
どのような活動をしましたか	ふれあいづくり(仮設では食事サービース、茶話会等)、復興住宅の同居の方への声かけ		慰問、声かけ	4月初旬に一乗寺(市内)の見学会、サイサイ祭に招待(バス1台)	ふれあいづくり(福祉センター、バス旅行、芸能発表会招待)、引越し手伝い	被災地老人クラブを招き、交流会を開催	特に活動はしなかった
どこで活動したか	被災地と居住地の両方		居住地		居住地	居住地	
いつ頃まで活動を続けたか(具体的な)	継続中(活動形態は変化)		震災後1年間		震災後5年	震災後1年	
参加者について(延べ人数)	100人/月		30人		25,000人	100人	
費用はどうしたか	会員の負担、会の経費から支出、助成金		会の経費から支出		会の経費から支出、助成金	会員の負担、会の経費から支出	
その他							
震災前と、震災後における団体の活動内容の変化(自由記入)	震災直後は、仮設、避難所等での活動が主体だったが、現在は特養老人ホーム訪問やベルマーク取集等に変わった。		家族や身内が被災された方も多く、活動できる範囲で自分たちにも負担のないようにと制限したため、同じメンバーが活動の中心になっていた。		地元で震災が起きた場合の対応として、愛の募金事業が始まった。		
その他、震災と地域女性団体の関係について(自由記入)	なし		グリーンピア三木が支援物資の基地となっていたため、地元の人団体は応援に出向いていたが、現場までの足がないために出ていける方と出られない方との意見のやりとりもあった。		手作りの慰問品も贈呈、激励した。		
添付資料	あり						あり

兵庫県婦人防火クラブ連絡協議会

震災直後(H7.1~3月末まで)の活動について		神戸市	尼崎市	明石市	加古川市
どのような活動をしたか	物資提供		食料支援、物資提供、募金活動	食料支援、消防団の活動時の食事の手伝いも行う	食料支援、避難所での支援、募金活動
どこで活動したか	居住地	居住地	被災地と居住地の両方	居住地	被災地と居住地の両方
震災後、何日目から活動を始めたか	4日~1週間以内	3日以内	3日以内	1週間以後	3日以内
いつ頃まで活動を続けたか	平成7年2月末まで	平成7年3月末まで	平成7年3月末まで	平成7年2月末まで	平成7年2月末まで
参加者について(延べ人数)	取りまとめ役ではなかったの で、わかりません	67人	67人	35人	70人
費用はどうか	個人	会員の負担、会の経費から 支出	会員の負担、会の経費から 支出	義援物資	会員の負担、日本防火協会助成金
覆旧・復興期(H7.4月以降)の活動について					
どのような活動をしたか	職場に来られた方々に食事、 お風呂のお世話	ふれあいづくり	ふれあいづくり	地域では安否確認等の活動	ふれあいづくり(声かけ、買い物、掃除、話し相手)、すぎ間張り、物資の仕分け
どこで活動したか	居住地	居住地	居住地	居住地	被災地と居住地の両方
いつ頃まで活動を続けたか(具体的な 参加者について(延べ人数))	1年ぐらい 職場での提供なのでわかり ません。	656人	656人	35人	震災後1年(仮設住宅)
費用はどうか	会社	会の経費から支出、義援金 その他	会の経費から支出、義援金 その他	助成金	会員の負担
その他					
震災前と、震災後における団体の 活動内容の変化(自由記入)	団結力は高まったと思います。	地域のコミュニケーションが皆さん に理解ができた。今後の被災 地についても早い活動ができ ると思っています。	地域のコミュニケーションが皆さん に理解ができた。今後の被災 地についても早い活動ができ ると思っています。	震災を機に地域でボランティア アグループを立ち上げ、現在 も活動しています。	即座に集まることができ、団体の連帯意識の強 さを感じる事ができた。震災後、さらに自分たち の団体が必要であることを痛切に感じると共に、 その時活動した人たちの交流がいつまでも続 き、人間関係の素晴らしい面が現れた。
その他、震災と地域女性団体の 関係について(自由記入)	女性のパワーが、いまさらな がらすごいものだと感じまし た。	震災を通して地域女性の 方々と親密に話し合えるよう になったと今会でよく聴かさ れる。良い事だと思ってい る。	震災を通して地域女性の 方々と親密に話し合えるよう になったと今会でよく聴かさ れる。良い事だと思ってい る。	炊き出しは連合女性の会と 協力活動	他団体との関係は特に発展しなかったが、自分 たちが表裏一体で持っている団体(婦人会)の 理事や会員の理解と支援に感謝することができ た。
添付資料					あり

兵庫県婦人防火クラブ連絡協議会

西脇市	小野市	加東郡	姫路市	揖保郡
食料支援、避難所での支援、募金活動	食料支援、物資提供	食料支援、避難所での支援、物資提供	食料支援、物資提供、募金活動	食料支援、物資提供、募金活動
被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方	被災地	被災地と居住地の両方	被災地(灘)
4日～1週間以内	1週間以後	3日以内	4日～1週間以内	4日～1週間以内
平成7年3月末まで	平成7年2月末まで	平成7年3月末まで		平成7年2月末まで
600人	84人	40人	60人	70人
会の経費から支出、行政	小野市、(財)日本防火協会	会員の負担、町役場から支出	会の経費から支出	会の経費より支出、行政より
		ふれあいづくり(おもつき大会で交流)	特に活動はしなかった	特に活動はしなかった
		被災地		
		平成7年3月末まで		
		40人		
		町より		
直後は団結力が高まったが、継続はしなかった。		震災の時ほどボランティアの活動の意識が高まり、また助け合うことの大切さを感じた。	婦人会相互、婦人防火クラブ員の団結力は高まった。	
		震災時には、地域女性団体が大事であるかを痛感しました。震災翌日には毛布を集め、また、おにぎりづくりをしまして、現地へ届けました。こんな時こそこの組織があればこそと思いました。		
	あり		あり	

兵庫県婦人防火クラブ連絡協議会

宍粟郡一宮町	養父市
食料支援、避難所での支援、物資提供、募金活動	食料支援、物資提供、募金活動
被災地と居住地の両方	被災地と居住地の両方
3日以内	3日以内
平成7年2月末まで	平成7年3月末まで
100人	300人
会の経費から支出、役場の支出	会員の負担
ふれあいづくり(役員がお見舞いを持参)	年末におもちの配布(仮設住宅に)
	被災地
	震災後1年
	28人
	会員の負担、会の経費から支出
<p>婦人会離れが言われるようになったが、当時震災当日の夕方、役場より各家庭1枚ずつの毛布を供出するよう言われ、翌日の夕方にはセンターに山積みした毛布が集まり、担当者が何と婦人会の方には頭が下がると「ア」と感謝されたのを思い出します。田舎はまだまだ婦人会は健在で、何か事が起これば団結心は高く、今も変わらないと信じています。</p>	<p>災害に対する取り組みは強くなり、協力的です。</p>
<p>沢山のグループはあるが、大きな団体にはかなわないと思う。上で婦人会と書きましたが、私達は婦人会、婦人防火クラブ、消費者団体ともイコールですから、災害にも心を一つにできると日頃より活動しています。</p>	<p>女性団体、防火クラブ、日赤とも同じ女性団体で構成されており、役員も同じ。支部長、会長、皆いっしょに関わりいろいろな国内、国外でも災害に合われたら義援金等支援しております。</p>

兵庫県商工会女性部連合会

震災直後(H7.1～3月末まで)の活動について	
どのような活動をしたか	募金活動
どこで活動したか	被災地と居住地の両方
震災後、何日目から活動を始めたか	1週間以後
いつ頃まで活動を続けたか	平成7年3月末まで
参加者について(延べ人数)	25人(役員数)
費用はどうしたか	会員の負担
復旧・復興期(H7.4月以降)の活動について	
どのような活動をしたか	その他(部会活動の助成)
どこで活動したか	被災地と居住地の両方
いつ頃まで活動を続けたか(具体的記入)	震災後3年間
参加者について(延べ人数)	25人
費用はどうしたか	会員の負担
その他	
震災前と、震災後における団体の活動内容の変化(自由記入)	地域相互の交流が深まった。
その他、震災と地域女性団体の関係について(自由記入)	男性中心の団体よりも女性団体のほうが動きが早く、生活に密着した活動を展開していた。
添付資料	あり



美方郡	
震災直後(H7.1~3月末までの活動について)	<p>どのような活動をしたか</p> <p>食料支援、物資提供</p> <p>どこで活動したか</p> <p>被災地と居住地の両方</p> <p>震災後、何日目から活動を始めたか</p> <p>平成7年2月末まで</p> <p>いつ頃まで活動を続けたか</p> <p>50人</p> <p>参加者について(延べ人数)</p> <p>費用はどうか</p> <p>会員の負担、会の経費から支出</p>
復旧・復興期(H7.4月以降)の活動について	<p>どのような活動をしたか</p> <p>特に活動はしなかった</p> <p>どこで活動したか</p> <p>被災地</p> <p>いつ頃まで活動を続けたか(具体的に)</p> <p>平成14年</p> <p>参加者について(延べ人数)</p> <p>50人</p> <p>費用はどうか</p> <p>会員の負担、会の経費から支出</p>
その他	<p>震災前と、震災後における団体の活動内容の変化(自由記入)</p> <p>活動内容に「災害に強い地域づくりとボランティア活動」をテーマにとりあげ、実践活動を行っている。</p> <p>その他、震災と地域女性団体の関係について(自由記入)</p> <p>添付資料</p>

震災直後(H7.1~3月末までの活動について)	
どのような活動をしたか	会から震災見舞金支出、特に活動はしなかった
どこで活動したか	
震災後、何日目から活動を始めたか	
いつ頃まで活動を続けたか	
参加者について(延べ人数)	
費用はどうしたか	
復旧・復興期(H7.4月以降)の活動について	
どのような活動をしたか	特に活動しなかった
どこで活動したか	
いつ頃まで活動を続けたか(具体的記入)	
参加者について(延べ人数)	
費用はどうしたか	
その他	
震災前と、震災後における団体の活動内容の変化(自由記入)	特になし
その他、震災と地域女性団体の関係について(自由記入)	当会は地域団体を持たないので、震災時には、会員が個人(地域で属する会)で活躍されたとは思いますが、状況を把握していない。
添付資料	

兵庫県漁協婦人部連合会

震災直後(H7.1~3月末までの活動について)		神戸	但馬	洲本
どのような活動をしたか	食料支援、特に活動はしなかった	食料支援、物資提供、募金活動	食料支援、物資提供、募金活動	食料支援、物資提供、募金活動
どこで活動したか	被災地と居住地の両方	被災地	被災地	被災地
震災後、何日目から活動を始めたか	4日~1週間以内	1週間以後	1週間以後	1週間以後
いつ頃まで活動を続けたか	平成7年3月末まで	平成7年2月末まで	平成7年2月末まで	平成7年3月末まで
参加者について(延べ人数)		20人	20人	80人
費用はどうしたか	義援金、現物	会員の負担	会員の負担	会員の負担
復旧・復興期(H7.4月以降)の活動について				
どのような活動をしたか	特に活動はしなかった	特に活動はしなかった	特に活動はしなかった	チャリティバザー
どこで活動したか				居住地
いつ頃まで活動を続けたか(具体的に)				震災後1年間4回
参加者について(延べ人数)				150人
費用はどうしたか				不用品を持ち寄りバザーをして収益金を被災地へ送りました
その他				
震災前と、震災後における団体の活動内容の変化(自由記入)	活動内容は震災後は活発になり、現在に至る。			
その他、震災と地域女性団体の関係について(自由記入)				
添付資料	あり			

震災復興検証アンケート添付資料一覧

兵庫県連合婦人会	
姫路市	・「婦人ひめじ」(姫路市連合婦人会発行)H7.2.23、3.25、4.28、6.25
加古川市	・神戸新聞(H8.1.30) ・加古川市連合婦人会創立50周年記念誌(H12.12発行)より活動写真
赤穂市	・「ともしび」(H7.3.1)
宝塚市	・「1995.1.17.5:46」(宝塚市連合婦人会発行) ・阪神・淡路大震災被災状況調査 ・阪神・淡路大震災支援活動実施報告
三田市	活動写真添付有
夢前町	・「ゆめさき婦人会だより」(H16.2.25)
朝来郡	メモ書き添付有
兵庫県消費者団体連絡協議会	
尼崎	・兵庫ジャーナル560号(H7.2.27)に炊き出しの活動を取り上げられる。 ・H7.1.25及び3.8の会員向け「たより」がある。(今回の回答には添付無)
兵庫県いずみ会	
三田市	新聞記事(複数)、詳細な説明文添付有
兵庫県愛育連合会	
五色町	・活動写真 ・「結成20周年記念誌」より抜粋
兵庫県更正保護婦人連盟	
朝来地区	婦人時報(H8. 1)、他活動写真
財団法人兵庫県老人クラブ連合会	
西宮市	・西宮市老連(第9号 平成7年)
姫路市	・朝日新聞記事(H9.2.24) ・「熟年」(姫路市老人クラブ連合会) H7.3、H7.8、H8.3、H8.12
兵庫県婦人防火クラブ連絡協議会	
加古川市	・神戸新聞(H8.1.30) ・加古川市連合婦人会創立50周年記念誌(H12.12発行)より活動写真
小野市	・支援活動状況(資料)
姫路市	・「ふれあい」(八木婦人会発行)H7.3.25
兵庫県商工会連合会	
	・「復興への槌音」(H7.11兵庫県商工会連合会発行) ・平成7年度～8年度 商工会会報 ・県青連会報、県婦連こだま合併号(震災特集) (H8.3連合会発行)
兵庫県漁協婦人部連合会	
神戸	・婦人部だより「しおかぜ」(H7.4、H7.6)